

実務経験のある教員による科目の配置状況

第一看護学科1, 2年(2022年改正カリキュラム)

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	事業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護学全体の基本的内容や看護学の本質について支援する。
		基本技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、基礎的な救急救命に関する知識、対象を把握する意義や感染予防技術等について支援する。
		基本技術Ⅱ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の基本技術となるコミュニケーション、記録・報告、さらに患者が安楽に過ごすための援助方法等について支援する。
		看護の展開技術Ⅰ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、健康障害や治療・療養生活が患者に及ぼす影響と、患者の状況に合わせた看護について支援する。
		看護の展開技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる臨床判断能力等について支援する。
		生活援助技術Ⅰ	1	30	○	【環境】【活動・休息】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法の習得を支援する。
		生活援助技術Ⅱ	1	20	○	【食事】【排泄】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
		生活援助技術Ⅲ	1	30	○	【清潔】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
		生活援助技術Ⅳ	1	25	○	【様々な状態にある人の援助】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で安楽に過ごすための援助方法の習得を支援する。
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、呼吸・循環を整える技術の習得を支援する。
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、診療に伴う援助技術としての与薬時等の看護技術の習得を支援する。
		看護の研究的視点	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。
		看護の探究	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。
					13	315
臨地実習	看護を知る実習	1	30	○	臨地において、実務者である実習指導者とともに看護場面の見学や体験をとおして「看護」とは何か、を考えられるように支援する。	
	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○	臨地において、実務者である実習指導者や専任教員とともに患者の思いや生活、対象にあった援助について考え、実践できるよう支援する。	
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	○	臨地において、実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、患者の状況(変化)に合わせて必要な看護を考え、実践できるよう支援する。	
				4	165	
			17	480		実務経験のある専任教員による科目は17単位 480時間

実務経験のある教員による科目の配置状況

第一看護学科3年（旧カリキュラム）

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	事業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護学全体の基本的内容や看護学の本質について支援する。
		基本技術Ⅰ	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、基礎的な救急救命に関する知識、対象を把握する意義や感染予防技術等について支援する。
		基本技術Ⅱ	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の基本技術となるコミュニケーション、記録・報告、さらに患者が安楽に過ごすための援助方法等について支援する。
		生活援助技術	1	30	○	【環境】【活動・休息】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法の習得を支援する。
			1	30	○	【食事】【排泄】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
			1	30	○	【清潔】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
			1	30	○	【様々な状態にある人の援助】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で安楽に過ごすための援助方法の習得を支援する。
		診療の補助技術	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、診療に伴う援助技術の習得を支援する。
	経過別看護	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象の健康段階に応じた看護の役割が理解できるよう支援する。	
	看護の研究的視点	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。	
		12	300			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○	臨地において、実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、看護の役割を考えられるよう支援する。
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	○	臨地において、実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、患者の状況（変化）に合わせて必要な看護を考え、実践できるよう支援する。
			3	135		
				15	435	

実務経験のある教員による科目の配置状況

第二看護学科1年（新カリキュラム）

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	事業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	20	○	看護師である選任教員がその経験を活かし、看護の基本概念や社会における役割、重要性さらには本質について支援する。
		基本技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、患者の身体状況を把握できる基本知識とフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を習得する。
		基本技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象のねがいにそった看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を支援する。
		生活援助技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽な環境を整え日常生活を支える環境づくりと活動・休息を援助する看護技術を習得する。
		生活援助技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽な環境を整え日常生活を支える清潔・衣生活を援助する看護技術を習得する。
		生活援助技術Ⅲ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽な環境を整え日常生活を支える食事・排泄を援助する看護技術を習得する。
		看護倫理	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護を实践する上での倫理的問題への対応について支援する。
		臨床看護総論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、健康障害のある患者の理解や状態や状況に応じた処置・検査時の看護について支援する。
			8	210		
	臨地実習	基礎看護学実習		2	90	○
			2	90		
			10	300		実務経験のある専任教員による科目は10単位 300時間

実務経験のある教員による科目の配置状況

第二看護学科2年（旧カリキュラム）

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	事業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	○	看護師である選任教員がその経験を活かし、看護の概念の理解を基盤とし、対象である人間と看護の役割・機能について支援する。	
		基本技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、患者の身体状況を把握できる基本知識とフィジカルアセスメントの技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を習得する。	
		基本技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象のねがいにそった看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を支援する。	
		生活援助技術	3	75	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽な環境を整え日常生活を支える看護技術を習得する。	
		臨床看護総論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、健康障害を持つ対象の状態に合わせた処置、検査時の看護技術を習得する。	
		看護の研究的視点	1	15	○	看護師である講師がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。	
			8	210			
	臨地実習	基礎看護学実習		2	90	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、健康障害のある患者の理解や状態や状況に応じた看護について支援する。
				2	90		
				10	300		実務経験のある専任教員による科目は10単位 300時間